



山梨岳連

紙 名：野村静谷氏
 (毎日書道展審査員)
 発 行 山梨県山岳連盟
 (年4回)
 発行人 秋山 泉
 編集人 広報委員会
 (深沢 健三)
 事務所
 〒400-0304南アルプス市吉田166-2
 (望月 啓治方)
 (1部 100円)



肩まで雪で埋められて埋没体験

度の無雪積期レスキュー講習会からはtotoの助成金を受け、最低3泊以上の講習会、また一般公募のオープン公募となった説明があった。そのためか、35人の定員募集に50人の応募があり、結果、43人でクラスとした。

10・30〜12・00 クラスごとに別れ3日間の講習メニュー、ピーコンの機種・性能・売れ筋など座学。

クラス1 メーン講師・渡邊 サブ講師・近藤・瀬藤

13・00〜17・00 クラス1の受講は18人、6人3班に分ける。確かに一般公募だ

- ・ 期日 10年1月
- ・ 趣旨 遭難対策委員会
- ・ 主催 遭難対策委員会
- ・ 主管 遭難対策委員会
- ・ 趣旨 現場で必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的とする

最近めきめきと冬山スキルを上げてきた山梨大3年生、中山可奈と吾妻篤子。日本山岳協会のレスキュー講習会に参加したいとの意向を受けて、基礎コース(雪質観察、ピーコン基本操作、雪崩の予防、シエルター、低体温症)に申し込んだ。ちなみに他コースとしては救助コースがある。

・ 主催 遭難対策委員会

・ 主管 遭難対策委員会

・ 趣旨 現場で必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的とする

ピーコン、埋没など体験

日山協レスキュー講習会に参加

県岳連への普及目指す

29日 29〜31日

・ 会場 群馬県利根郡水上町湯檜曾土合土台山の家

29日 4・30 菲崎市役所集合15・00 勝沼ICで近藤遭対常任拾い水上ICへ

8・30 土台山の到着

9・30 受付開始

10・00 開講式オリエンテーション

開講に当り、西内委員長から、本年

けあって、若いポーターもいるのである。しかも雪山「三神器」のショベル、プロップ、ピーコンをしつかりと携行して来ているのである。まずは各班で山の斜面を利用して自由に雪のシエルターを作る。講師講評を受け、各班のシエルターの見学。次は積雪30cmあれば十分なシエルター作りができるスノーマウント(かまくら)の作成である。円状の雪の台地高さ1mを作成、その上にメンバーのザックを乗せ、そしてツェルトをかぶせ、さらに雪を乗せ固める。横から穴を掘り、ザックを抜いていく。そして仕上げをしていけば6人が入れるシエルターの完成である。

19・00〜21・30 座学 低体温症について、簡易スリングによるハーネス作りなど。

8・00〜10・00 座学 雪崩のメカニズムなど。

講師・日本雪崩ネットワーク だがわあざさ氏

講師・NZプロスキーガイド 早乙女氏 最近の雪崩事故を中心にDVDの映像で紹介と救助例など。

10・00〜12・00 フィールドに出て雪の層の観察、弱層テスト、ハンドテストなど行なう。

13・00〜17・00 フィールド ピーコン操作

遭難対策委

30日

13・00〜17・00 クラス1の受講は18人、6人3班に分ける。確かに一般公募だ

(2面へ)



地蔵尾根での滑落停止訓練

地蔵尾根、硫黄岳で 雪山初心者の講習会

1月30、31日の両日、八ヶ岳西面で初心者対象の雪山講習会を開催した。参加者は

班に分かれて、ピーコンを埋める側と搜索側2チーム編成とする。ピーコンは万国共通457kHz、種類はアンテナ数、シングル・デュアル・トリプル、そして最近発売されたシングル+複数磁気センサー搭載の3次元ピーコン。
埋没者4人以上も感知できる優れたもの。独・ORTOVOX社製。例えば、この下1m10cmに遭難者がいることを数字で表示する。もちろん近くなればなるほどアラームも激しく鳴る。
次に雪の重さ体験、埋没体験を行なう。身動きがまったくできない。

埋められた上で飛んだり跳ねたりしてもまったく分らない。そして、本日の最後は講師補佐の瀬藤さんが全身埋められてのプローブ実体験。そして掘り起こし、シートに包んでの搬出。
31日 8:00~9:00座学、講師実技のみ
シート搬送(包み込み)
9:00~12:00フィールド チームシミュレーション総仕上げ。
各班、目の前で他パーティーが雪崩に巻き込まれた事を想定し、リードを決め、搜索係・プローブ係・シヨベル係、15分以内に搜索、掘り起こし、搬出。チームシミュレーション

山梨アルパインクラブ2人、山梨大学山岳部6人。
初日は美濃戸口から入山、天気は快晴。行者小屋にテントを設営した後に、地蔵尾根をしばらく登った雪の斜面を使って雪上訓練を行う。アイゼンなしでの歩行、アイゼン使用での歩行、ラッセル、様々な体勢からの滑落停止など。
翌日はやや雲が多いが午前中は晴れ。赤岳鉱泉を経て硫黄岳を目指す。赤岩の頭手前の斜面でブロックを切り出して、弱層の観察とテストを行った後に硫黄岳登頂。下山の途中、中山乗越でピーコン搜索の練習を行う。行者小屋に戻ってテントを撤収、美濃戸口で解散した。
(技術指導委員長 古屋仁志)

高室、内藤さん連盟旗を寄贈

岳連新年会で披露

高室陽二郎名誉会長、内藤順造前会長は、



新年会で披露された岳連旗

古くなった岳連旗の代わりに使ってほしいと、大小2つの岳連旗を寄贈した。
岳連旗は、各種大会や会議などで飾る頻度が高く、ひもの取り付け部分が破れるな

を行なった。
3日間にわたり、かなり濃い内容、充実した内容で全メニューを終えた。昼食後、閉講式が行なわれ、修了証受取代表は一番若い吾妻が選ばれ、西内委員長より渡された。
今回の講習は助成金もあって、2泊6食付で1万5千円と格安だった。学生は2泊6食付で1万円である。また食事もすべてが豪華でおいしかった。
無積雪期は富山県立山の文登研、積雪期は、ここ土合山の家に固定講習だそうで次回、多くの参加を望みたい。また県内においても合宿をおこない普及していきたい。
(遭難対策委員長 植松一好)

どしていた。2人が相談して新しい旗を作り、「岳連活動の新しいシンボルに」と、1月23日の岳連新年会で披露された。
新年会は約80人が出席。秋山会長があいさつし、各会の自己紹介、エルクとICI石井スポーツのオークションなどで盛り上がった。

「岳人」で「登山史を歩く」連載

日本山岳会(JAC)山梨支部(古屋学而支部長)が、創立60周年を記念して行った「登山史を歩く」が、山岳雑誌「岳人」の2~4月号で連載されている。

「登山史を歩く」は、登山や信仰、生活など歴史の道歩き、21世紀初頭の記録を残すのが目的。07年から08年にかけて9つのルートを歩き、創立60周年の記念誌『甲斐山岳』創刊号で特集した。この中から2月号で大峠、樽峠、3月号で女坂、金峰山古道、富士山古道が掲載された。4月号は赤雑沢、荒川本谷、湯道、大菩薩大黒茂谷の予定。購入申し込みは文庫堂(055・241・9041)岩間さんへ。

医療法人 立史会
理事長 今井立史(スポーツドクター)

今井整形外科医院
TEL 055-232-7411

お年寄りのリハビリと介護
介護老人保健施設 **ノイエス**
TEL 055-275-1165

希少種確認は13種に

21年度レインジャー報告

経年変化のデータ蓄積

平成20年度に施行された「山梨県希少野生動物種の保護に関する条例」は、法令の精神である希少野生動物種の保護を図ることに、生物の多様性が確保された良好な自然環境を守っていくことを目的としている。21年度も新山岳レインジャー制度のもとに業務を展開、指定地域の調査を実施した。

調査地域は高山帯の希少野生動物種の調査を目的に白根三山、鳳凰三山、甲斐駒・仙丈ヶ岳、八ヶ岳、奥秩父の5地域について、それぞれ「定経路調査」「探索調査」として実施した。本年度も2人1組で1泊2日、日帰りを含めた規定の延べ調査人数2



北岳・大樺沢両侯での学習会



八ヶ岳・川俣川での学習会参加者

28人に対し、調査業務への関心の高まりから延べ人員は323人と、はるかに上回った人数による調査が実施された。

調査報告書は山岳レインジャー研修会、現地でのレインジャーを兼ねた2回の高山植物学学習会も報告。また2年目ということもあり一般的に前年度に比べ、精査密度の濃い報告書が多く寄せられた。

希少高山植物指定種はキタダケソウを除く17種のうち期間中、指定範囲内山域の登山道沿いの定経路調査・探索調査において11種の生育が確認された。結果的に新たに2種確認されたものの、前年度確認の2種が見つからず同じ結果となった。前年度確

認分を含めると13種となり未確認は4種となった。定経路調査においては、定期的に連続した観察を行い、指定種の開花期の変化が記録された。これらは旧年度の調査結果と比較することにより経年変化が確認できる。

定経路調査では、調査区域が登山道沿いのため確認範囲は限定される半面、探索調査は広範囲に調査を行なったものの、残りの希少種は登山道をかき外れるものと思われ確認できなかった。また本年度より希少種調査のほか、これらに続く山梨県レッドデータブックに掲載されている絶滅危惧・準絶滅危惧種の高山植物の報告をできる範囲での記載をお願いしたところ、多くの報告があり、今後貴重なデータになり得る。

調査報告書にはその他特記事項も多く記載された。希少野生動物種のライチョウの生息確認は調査中、北岳・甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳で6件の確認報告があった。二本ノザルについては主として北岳3000m稜線付近の報告が多く、貴重な高山植物への影響が危惧される。

二ホンジカについては全ての山域で今年も多数の目撃情報が報告された。特に北岳の大樺沢、草スベリ、鳳凰三山の賽の河原付近、仙丈ヶ岳の北沢峠、馬の背付近、八ヶ岳の川俣川などの食害、皮はぎ被害の報告が多く、大変懸念される。

本年度の活動を通じ、岳連関係各位、自然保護委員会、各会の協力と努力により、希少高山植物種の重要性和保護意識が高まり、山梨岳連全体のレベルが向上してきたことに大変感謝したい。山岳レインジャー活動は高山帯の調査で大変な苦勞が強いられるが、本県は山岳環境に大変恵まれており、上記の法の精神を後世へ継承できるように、今後もさらなる協力をお願いしたい。(自然保護委員長 磯野澄也)

ISO 14001 認証取得
ISO 9001 認証取得



株式会社
早野組

真心と確かな技術
早野組

代表取締役社長 早野 潔

本社/〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10 ☎055-235-1111
東京支店/〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24 ☎0426-67-8800
リニューアル室/ ☎055-232-0200

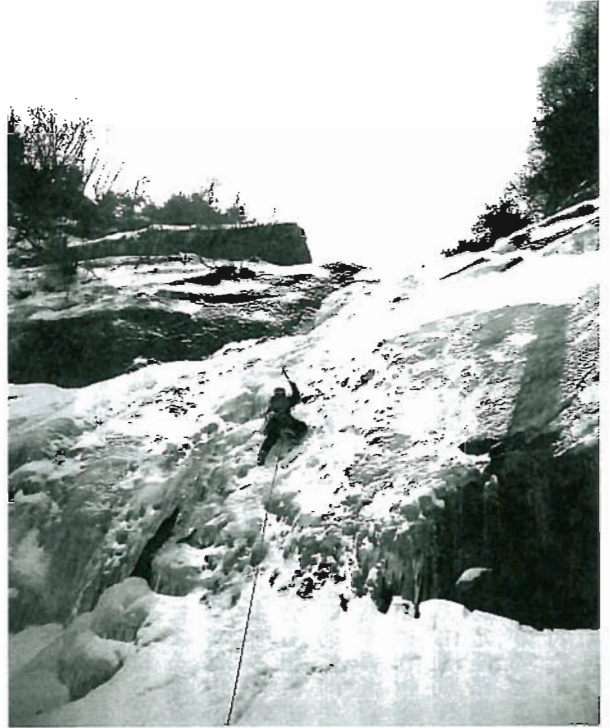
山 行 記 録

甲斐駒ヶ岳
黄連谷左俣

▼メンバー 橋本誠(山梨アルパインクラブ) 亀田博生(白鳳会)

2年前の冬、黄連谷右俣を登った。甲斐駒山頂に抜ける素晴らしいルートだった。今回は大きめの氷瀑がいくつもある左俣を目標にした。

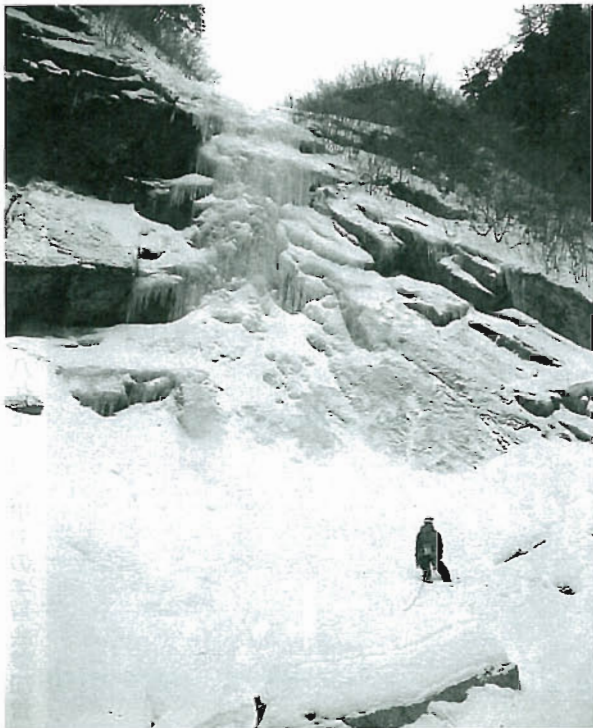
09年12月9日(晴れのち曇り) 7時に竹宇駒ヶ岳神社から登る。横手からの分岐辺りで七丈小屋からボツカ下山中の田部さんと会う。「もう右俣は埋まっちゃったよ。左俣も細い。今シーズン黄連はまだ誰も入っていないんじゃない」と言われた。確かに11月下旬は暖かかった。重荷も手伝って汗だくで黒戸尾根を登る。12時、5合目小



最後の滝50m

屋跡に到着。本日はここにベースを張り、明日は軽装で左俣を攻略予定だ。テントがひと張りあった。30年ぶりに甲斐駒に来たという男性。8合目でラッセルが厳しく登頂を断念したそう。篠沢七丈瀑が見える。田部さんの言うとおり、この時

期に見た中では非常に薄く細い氷瀑だった。10日(晴れのち曇り) 4時起床。ラーメンを食べて6時にヘッランを点けて谷へ



核心部

長いので腕も張ってくる。上部2回はフイフイでアックステンションしながらスクリーセットをした。傾斜が落ち、ロープいっぱいコールがかかり左のブッシュでビレイを取る。橋本が登っている時に後続が現れた。どうやら日帰りのよう

下る。トレースがある。下る踏み跡と登る踏み跡が付いている。下りながら左に見える五丈の沢はまったく凍っていない。雪がよい状態で積っており、以前の記憶もあつたので順調に谷へ下る。6時40分沢底着。坊主の滝着。滝の中央に水流が見える。登る気にはなれず高巻く。前者のトレースは坊主の滝までで引き返したようだ。谷へ戻り20mほどの薄い滝をフリーで越える。やがて二俣着。左俣スタート。橋本リード。フォローで上がると上部は氷が薄く踏みぬいた後があつた。リードはヒヤヒヤものだったことでしょう。滝を抜けると橋本はもう先にロープを延ばし歩いていった。確保していかないのだけれど。まあ落ちんら。大滝60m、9時40分着。大滝、亀田リード。見た目より氷はしっかりしていていい感じだ。傾斜も立っており小まめにスクリーを決める。氷は割れやすく顔にあたって鼻の上をパツクリ。

だ(下山後分かったがガイドの花谷氏でした。残り10mほどを橋本がリードし大滝を登りきった。大滝に1時間ほどかかった。しばらくラッセルして行くと最後の滝が出現した。橋本がリードする。真ん中の氷柱を登ると思っていたが、左の緩い氷から登った。フォローに入る。ふくらはぎが辛くなってきた。核心は終了。あとは沢を尾根に詰めるだけ。吹きだまりは蟻地獄状態の所もあつたが、だいたいクラストしていてそんなに苦しいラッセルではなかった。しかし長い。かなり登り詰めた。まだ先に沢は続いているが、右上看えのある岩壁。この辺のブッシュを左に登れば登山道に出ると思いつた。昨日男性が歩いたトレースがあつた。15時30分、5合目に戻りテント撤収。16時30分5合目出発。20時、竹宇駒ヶ岳神社着。氷の状態、天候の不安とあつたが、結果的には充実した楽しい山行ができた。(白鳳会 亀田博生)

登山・アウトドアのプロショップ
OUTING PRODUCTS
エルク
〒400-0047
山梨県甲府市德行4-13-9
TEL: 055-222-1991
e-mail: elk@elkinc.co.jp
http://www.elkinc.co.jp
☆ホームページもご覧ください!!!

富士山、鳳凰から 北岳ステップへ

「冬の北岳に登りたい」これが私の目標だった。しかし今の自分たちだけでは冬の北岳に登る知識も技術も経験もない。遭難対策委員長である植松さんに相談したところ、年末に行こうとの言葉が！ まさか本当に行けるなんて、とてもうれしかったが、自分でできるだろうかという不安も大きかった。

北岳アタックは09年12月29〜31日。それに向けてのスキルアップが始まった。スキルアップ第一段、12月12、13日、富士山へ。夏の富士山は何回も行ったことがあるが、冬なんて想像もつかない。ネットで調べてみると、立つていられないほどの強風、滑落したら止まらないなど、恐ろしいことがたくさん書いてあった。しかし当日はそんな心配を吹き飛ばすような美しい青空が広がっていた。最高のコンディションの中、富士山に登頂することができた。



初めての冬富士。九合五勺でバンザイ

第二弾は12月26、27日、県界尾根から赤岳へ。初めてわかんを使つての登山。雪と格闘中、ふと顔をあげるとそこにはイケ面赤岳が！ 最高の天候だったが、明後日からの北岳に備えて赤岳山頂を踏むことなく下山する。

ついに念願の北岳だと思つたと気持ちが高まる。しかし出発の前日、植松さんから北岳は中止して一泊で鳳凰へ行くという連絡がきた。理由は寒気の到来と、赤岳でぬれた吾妻の靴が乾かなかつたためだ。ずっと行きたいと思つていただけにかなりショックだったが、安全が第一。気持ち切り替えて鳳凰へ挑む。

天気予報通り天気はあまり良くない。燕頭山頂にテントを張り山頂を目指す。午後



鳳凰・薬師岳で

からは風が強くなり雪も降り出した。鳳凰小屋から観音へのルートは雪との戦いだった。稜線に出ると風が強すぎて、気合を入れていないと立つていられない。山頂は断念無念。テント場へ戻ると、飛ばないように雪で埋めておいたテントがひっくり返り、ポールが折れているという衝撃の光景が広がっていた。

これはヤバいと思つたが、植松さんは全く動じず、割り箸と歯ブラシでポールの修理をした。冬山の恐ろしさを思い知ると同時に、貴重な経験をすることができた。

年末に踏めなかつた観音の山頂は10年1月9、10日にリベンジで無事踏むことができた。北岳に行くという夢は叶えられなかったが、今まで知らなかつた世界をたくさん見ることができ、一回り成長できたような気がする。また山が大好きだということを実感した。これからもたくさん山に登り、たくさん経験の積み、後輩を冬の北岳に連れて行けるようになりたい。

(山梨大山岳部 中山可奈)

Mt.クック山麓ハイク

メープルが10周年記念

山梨メープルクラブは創立11年目にあたる2009年、10周年事業の一環として国内は北海道大雪山へ、国外はニュージーランド(NZ)南島へ遠征した。ここではNZサザンアルプス山麓ハイキングのひとつを報告する。

日程 2009年11月11〜20日

- ・ミルフォードサウンドクルーズとキーサミット展望ハイク
- ・ミルフォードトラック1日ウォーク
- ・ロブロイ氷河展望ハイク



Mt.クックを背景に参加者の記念写真

- ・マウントクック展望フッカー谷ハイク
- ・Mt.ジョンとデカボ湖散策、ワイタケレ森林公園散策

参加者 20人 (CL望月重臣、SL詫間仁 AOTEAROA (アオテアロア) : 白く長い雲のたなびく国 : 先住民マオリの言葉でNZはこう呼ばれるという。どこまでも続く緑の牧場に羊の群れ、国土の3分の

北岳 間ノ岳 仙丈ヶ岳 甲斐駒ヶ岳 鳳凰山
百名山の玄関口
南アルプス
広河原山荘
南アルプス市広河原
電話090・2677・0828

1が国立公園や自然保護区、訪れた彼の地は天候にも恵まれまさしく楽園であった。フッカー氷河谷をたどる我々の眼前に、突如としてその山は青白い氷河湖の上に姿を顕わにする。頂上部から一気に落ち込む南壁は人面のごとき雪の造化を見せる。「Mt.クックだ」。口々に歓声上がる。足下にはマウントクックリリーが大柄な白い花を咲かせ、時折、周囲の氷河舌端が崩れる鈍い音が聞こえる。遭難碑のプレートをとつとで、頭を垂れる。

ヨーロッパからの入植とともに急速に減少した原生林、しかし20世紀初めには反省



裏同心ルンゼに行く

「今年こそ」と期待し 八ヶ岳裏同心ルンゼ

2009年12月12、13日、八ヶ岳の裏同心ルンゼに向かった。今週は寒い日が少し続いたので、氷が成長すると喜んでいたら、金曜日は盆地でもたくさん雨が降ってし

が始まり保護されたという「原生のもの」のひとつミルフォードトラック。ブナ、シダ、コケの繁茂する太古の森の小道には、警戒心も薄く飛び交う小鳥たちのさえずりが響く。入山制限のおかげで人影もまばらなトレイルの吊り橋を渡り、沢水にのどを潤し、気のおけぬ仲間たちと南半球の森を歩く幸せに浸る。

我が国でも海外観光客増計画があると聞くが、持てる素晴らしい観光資源醸成のねらいをしっかりと見定め進めることが大切だなど、あらためて感じたりした次第。

(メーブルクラブ 雨宮洋一)

まった。それでも「今年こそ」と期待を持って美濃戸に向かった。

12日(晴れ)

美濃戸まで車で入り身支度を整えるが、天気予報通り異常な暖かさで、秋の沢と大して変わらぬ服装で出発。昼少し前に赤岳鉱泉に到着。小屋のおじさんが氷の状況を教えてくれた。現在登れるのは、「乙女の滝」「裏同心」。「大同心大滝」は細いが登れるとの事だった。

テントを張ってから、ジョーゴ沢に散歩にいった。ジョーゴ沢にはトレースがあり誰か入っている模様。沢は水量も多く、水際さえも凍っていない。しばらく歩いて、左岸の奥に見えた氷に行こうとしたが、オーバーパンツを履いてこなかったため、

ラッセルできずあきらめた。

トレースをたどってさらに歩いていくと、右手に「乙女の滝」を登っている2人が見えた。小さいナメ滝を登って取り付きに上がり、2人組と話をすると、ナイアガラ滝も登れそうとの事。シーズン初で垂直の滝を登る気が起きず、来た道を引き返す。

テン場に戻つてくると、アイスキャンデーは大盛況で、端に建てられた小屋には火もたかれていた。登録料と使用料で2000円となると、やっぱりもったいなくてアイスキャンデーはやめた。バイルを持った人たちが次から次へと到着して来る。登れる滝に限られ、明日の裏同心は混雑しそうなので、早めに出発しようと眠りについた。

13日(晴れ)

夜にばらついた雪も止み、今日も暖かい。オーバーズボンが要らない気温であるが、ラッセルの事を考えてヤツケのズボンを履いたので、とても暑くて汗が出る。パツチリ付いたトレースをたどっていくと、F1は認識できず、F2で準備している2パーティーが見えた。

F2の右側は落ち口に水が流れていたが、雪には埋もれていなかった。その先のナメはほとんど埋まっていたが、滝の上部の数mが出ていた。去年、一昨年の裏同心は、バイルを振ったのは最後の滝の頭だけで、最初から最後までラッセルだったのに比べればまともだ。

最後の滝の手前でトレースはなくなり、先行パーティーがラッセルとなる。滝の上で先行パーティーとラッセルを交代し稜線にあがる。ラッセルも最後だけ。ロープも

YATSUGATAKE

パイの家

エム・ワン

八ヶ岳*手づくりアップルパイ

有限会社 パンの家エム・ワン

〒409-4502 山梨県北杜市大泉町谷戸5883

TEL.0551-38-4181

FAX.0551-38-4409

URL <http://www/pai-ml.co.jp>

E-mail info@pai-ml.co.jp

(地方発送も承ります)

出す事がなかったもので、テン場に戻つたら、まだ9時半頃だった。

知人からアイスキャンデーを誘われたけど、やっぱり高いので、荷物をまとめて美濃戸まで戻った。相変わらず、登山道はツルツルになっていたので転んだ。

△コースタイム▽赤岳鉱泉(6:50) | F2取付(7:23) | 稜線(8:39) | 赤岳鉱泉(9:33) (雪稜クラブ 岩間)

記念誌で富士山を特集

山梨郷土研究会

山梨郷土研究会(野口英一会長)が創立70周年を記念して発刊した機関誌『甲斐』70周年記念号で、富士山を特集している。

会員19人の論文や資料紹介を掲載。富士山とその周辺の地域を歴史的、考古学的に分析したり、信仰や伝承など民俗学的研究、自然や地理からの研究、古代歌謡や浮世絵、近世絵画の考察など、多角的な内容。2千円。問い合わせは帝京大山梨文化財研究所内、同会事務局(055・263・6441)。

年末年始 遭難相次ぐ

●片山右京さんら富士山で遭難

09年12月17日夜、富士山御殿場口の2750m付近にテントを張っていた元レーサーでマナスル登頂歴もある片山右京さんの仲間のテントが強風で飛ばされた。

片山さんは無事だったが、片山さんが経営する会社の男性2人(43歳と34歳)が死亡した。

3人は、片山さんの南極行きの訓練で登

山。17日に入山し、テントを2張りして片山さんと2人に分かれて泊まった。しかし強風で2人のテントが飛ばされた。片山さんが自力で下山して警察に通報。捜索の結果、2人の遺体を収容した。

●赤岳でも男女2人遭難、死亡

09年12月18日から20日の予定で山梨側から赤岳を目指した京都府と大阪府の男女2人(ともに34歳)が大天狗付近で遭難、死亡した。

登山届によると、2人は清里の美しい森に

車を置いて入山。天狗尾根から赤岳を目指したと見られる。大天狗付近で、行動中と見られる格好で発見、収容された。

●北岳では横浜の男性

北岳では横浜市の男性(41歳)が09年12月31日から10年1月4日の日程で白根三山縦走中に北岳南斜面で死亡した。1月6日に家族が南アルプス署に届け出た。ヘリで捜索の結果、9日に北岳と北岳山荘間の3km付近で遺体を発見、収容した。

理事会 報告

■09年12月度理事会

12月2日(水)午後7時〜 小瀬スポーツ公園体育館研修室

○協議項目

1 小瀬クライミング場にある岳連所有用具の再整備について

「管理、使用料徴収、更新」について、競技委員会へ検討を付託。

2 関東岳連連絡協議会への参加者について

秋山会長、望月副会長、羽田副会長、小宮山理事長、内藤顧問

提出議題は特になし

3 その他
岳連新年会の実施 1月23日 午後6時 場所 勝沼「大善寺」

会費 宿泊6,000円 日帰4,000円

来年度の主な行事日程
定期総会5月8日、チャレンジ登山8

■10年1月度理事会

1月23日(土)午後4時半〜 大善寺

○協議項目

1 小瀬クライミング場にある岳連所有用具の再整備について

「管理、使用料徴収、更新」について、競技委員会での検討で結論を得られないため、2月に開く常任理事会で検討する。

2 平成22年度中高年安全登山指導者講習会―東日本―(主管・山梨岳連)の方向性(時期、場所)について

候補としては、山に登れ、会議と宿泊ができる施設が整っている所であり、富士山、八ヶ岳、南アルプスなどを今後検討。時期は10月の方向。

3 南アルプス市芦安グリーンカップの実施について

ホールが破損しつつあるなど安全上の観点から実施しない方向で検討。

4 その他
高体連の山梨県山岳連盟会長表彰の申

活動 記録

請については承認

09年12月1日 会報78号発行

12月2日 理事会(甲府市)

競技委員会(甲府市)

17日 県体育祭ヒアリング(小瀬)

10年1月16日 日山協新年会(東京都)

23日 普及委員会(大善寺)

理事会・岳連新年会(大善寺)

クライミング認定講習会(小瀬)

25日 中高年安全登山指導者講習会打ち合わせ(東京)

27日 自然保護委員会(甲府市)

30日 クライミング技能講習会クラック初級1回目(伊豆 城ヶ崎)

30、31日 指導委員会初級雪山講習会(八ヶ岳)

国体審判員関東ブロック研修会(群馬)

2月13、14日 関東地区山岳連盟総会(千葉)

3月以降の行事予定

20日 クライミング技能講習会クラック初級2回目(伊豆 城ヶ崎)
21日 日山協評議員会(東京)
24日 常任理事会(甲府市)
25日 「山岳トイレ研究会」自然保護委員会主催(甲府市)

3月1日 会報79号発行

3日 理事会(甲府市)

27日 クライミング認定講習会(小瀬)

4月7日 理事会(甲府市)

競技委員会(甲府市)

中甸 会計監査

18日 国体山岳競技県予選会

23日 三浦雄一郎講演会(文学館)

5月8日 理事会・定期総会(甲府市)

26日 自然保護委員会(甲府市)

5月〜9月(予定) 山岳レインジャー活動

6月1日 会報80号発行

2日 理事会(甲府市)

7月10日 山の博覧会(山梨学院大)予定

瑞牆・金峰・横尾の山行時には

〈コーヒー・季節料理・お食事・宿泊〉

みずがきの宿 **五郎舎**
ごろうや
でおくつろぎ下さい。



TEL(0551)45-0329

日山協レスキュー講習会に参加して

山の恐ろしさ 体験通し実感

山梨大山岳部3年 中山可奈

自分のスキルアップ、また部活を安全に、活発にいくために今回、レスキュー講習会に参加した。率直な感想を言うと、毎年参加したいと思うほどとても楽しかった。

初めての雪洞づくり、ビーコンでの宝探し、またたくさんの人たちとの交流、楽しくて本当に内容の濃い時間だった。しかし楽しいだけではなく、山の恐ろしさを実感した時間でもあった。

埋没体験では、下半身だけ雪に埋められたが、びくともしない。雪崩の自力脱出は不可能だと悟った。ビーコンとプローブとシヨベルをととも買いたい心境になった。



スノーマウント(かまくら)の中で
中山可奈(右)と吾妻篤子

雪崩搜索のシミュレーションでは、練習だと分かっていたとしても、本当に緊張し必死になった。きつと今の私が搜索していたら助けられないだろう。しっかりと知識と技術に身につけなければ。

体験の収穫を 部員に広げる

山梨大山岳部3年 吾妻篤子

梨大山岳部3年目でようやく冬山に行くようになり、レスキュー講習会の必要性を感じ参加を決めた。レスキュー講習会で学



雪質の弱層テスト

んだことは、本当に無駄がなくてすべてが勉強になった。

特に印象に残ったのが雪の重みである。

山梨の雪はサラサラでフワフワなのに、谷川岳の雪はしつとりでズッシリだった。この雪質は雪洞を掘るには最適だったが、埋まったら大変だった。埋没体験で半身だけ30センチほど雪に埋まったが、その上に人が乗って飛び跳ねても何の感覚もないが、脱出しようと思っても少しも動かさないのだ。自力で脱出は不可能だった。実際に埋没者を救出するためには、ビーコン、プローブ、シヨベルが必要で、訓練をしなければならぬ。

講習会では、実際に緊急事態に遭遇した時にどのように行動したら良いのか、また行動できるための装備力を実技を交えて得ることができた。これらを他の部員に伝達し、部の力だけで厳冬期に縦走をできるように技術を高めていきたい。



閉講式。修了証の代表受け取りは吾妻



お知らせ

冬季用登山靴として長年に渡って販売して参りました「コフラック社・プラスチック製登山靴」は、全製品の製造が終了しました。多くの登山愛好家の皆様に御愛顧頂きましたことを御礼申し上げます。尚、プラスチック製登山靴はその製品特性上、経年劣化による破壊が多数確認されております。一般的に寿命の目安は5年程度ですが、特に購入後10年以上経過している場合は、ご自身の安全を確保するためにも、使用の中止をお願いします。

登山用品全般(冬山・沢登り・クライミング・山スキー・テレマークスキー)・高所作業用品・スキー用品取扱い



ICI 石井スポーツ 甲府店
〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1
TEL.055-221-0141
<http://WWW.ici-sports.com>